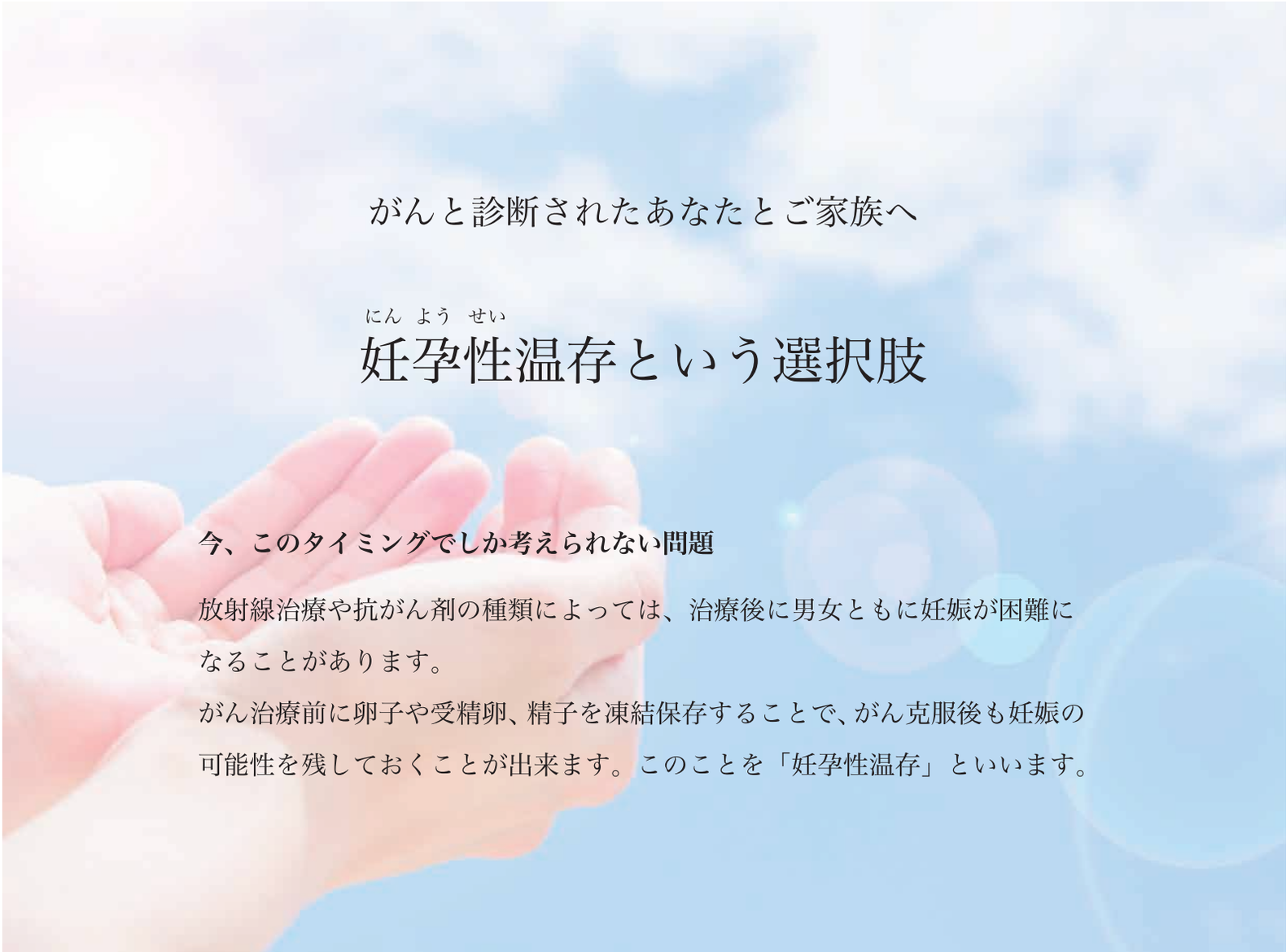

がんと診断されたあなたとご家族へ

# 妊孕性温存という選択肢

にん　よう　せい

**今、このタイミングでしか考えられない問題**

放射線治療や抗がん剤の種類によっては、治療後に男女ともに妊娠が困難になることがあります。

がん治療前に卵子や受精卵、精子を凍結保存することで、がん克服後も妊娠の可能性を残しておくことが出来ます。このことを「妊孕性温存」といいます。

近年の医療の進歩によって、がんは不治の病ではなくなってきました。
そのため、目の前のがん治療だけでなく、がんを乗り越えてどう生きるか、がん治療後の人生をどう歩むか、ということも考える必要があります。
特に、がんと診断された方が小児・思春期～30 歳代の場合は、治療後の恋愛や結婚、そして子どもを持つことへの配慮も必要となってきます。
そのための選択肢の 1 つが「妊孕性温存」です。
支援されるご家族の皆さまにも、この妊孕性温存の重要性について、正しくご理解いただきたいと思います。
しかしながら、問題の大きさに混乱してしまうこともあるかと思います。
そんな時は、がん治療施設、生殖医療施設、不妊専門相談センターが力を合わせ、全力でサポートします。ぜひ、お問合せください。

鳥取県がん診療連携協議会　がん生殖医療分科会
鳥取県健康政策課

詳しくを裏面をご覧ください

将来、子どもを持つという選択のために

# 主な妊孕性温存の方法

パートナーがいない女性の場合

## 未受精卵子の凍結保存

採卵誘発剤を投与し、卵巣を刺激します。
麻酔をした上で卵巣に針を刺して卵子を採取し、凍結保存する方法です。

男性の場合

## 精子の凍結保存

射精などにより精液を採取し、処理をした上で凍結保存する方法です。精巣から直接、手術を行い取り出すこともあります。

パートナーがいる女性の場合

## 受精卵（胚）の凍結保存

採取した卵子とパートナーから採取した精子を生殖補助医療により受精させ、数日間培養した胚を凍結保存する方法です。

年少女性や時間的な余裕がない場合

## 卵巣組織の凍結保存

腹腔鏡下手術などにより、卵巣組織の一部を取り出し、凍結保存を行う方法です。

妊孕性温存について詳しくお知りになりたい方、相談したい方は、
まずはお気軽に以下の鳥取県不妊専門相談センターにお問合せ下さい。
専門の医療スタッフが医療施設のご案内や意思決定のお手伝いをいたします。

## 鳥取県不妊専門相談センター はぐてらす

西部地域・・イオンモール日吉津　東館１階
午前 10 時から午後７時（年末年始を除き、無休）
お電話によるお問合せ　0120－0874－15（おはなし いこう！）
メールによるお問合せ　info@hug-terrace.com
臨床心理士、公認心理師へのご相談も承ります

東部地域・・鳥取県立中央病院内
毎週 火･金･土曜日：8：30～17：00（正午～午後１時を除く）
毎週　水・木曜日：午後１時～５時（メール、電話のみ）
（祝祭日及び１２月２９日～１月３日の年末年始を除く）
電話：0857-26-2271（代表）ファクシミリ：0857-29-3227
電子メール：funinsoudan@pref.tottori.lg.jp